

リスクアセスメント：リスクの見積り〔暑熱〕

環境・健康

厚生労働省の化学物質・粉じん、騒音、暑熱に関するリスクアセスメントのすめ方に基づく暑熱のリスクの見積りを下記に示しました。暑熱のリスクの見積りは、表.1 に示す有害性のレベル（温度指標）と、表.2 に示す作業の程度（作業の強さの指標）を基に行ないます。なお、WBGT（湿球黒球温度：Wet Bulb Globe Temperature）とは、熱中症になりやすい気象条件かどうか分かる基準のことです。（有害性のレベル分けは、気温、湿度、輻射熱を合わせた WBGT 指数が望ましい。）

表.1 有害性のレベル

有害性のレベル	WBGT 指数	WBGT 計が用意できないときの指標	
		乾球温度	湿球温度
A	31℃以上	35℃以上	27℃以上
B	28～31℃	31～35℃	24～27℃
C	25～28℃	28～31℃	21～24℃
D	21～25℃	24～28℃	18～21℃
E	21℃まで	24℃まで	18℃まで

表.2 作業の程度

作業の程度	作業内容(例)
極高代謝率作業	全身の激しい動作（上記の動作で呼吸が荒くなる動作等）
高代謝率作業	全身の動作（例：抱き上げる、まわす、引く、押す、投げる、歩く等）
中程度代謝率作業	上肢の動作（例：組み立てる、検査する、塗る等）
低代謝率作業	手先の動作、足先の動作（例：書く、タイピング、足でペダルを踏む等）

表.3 リスクの見積り

作業の程度 有害性のレベル	極高代謝率	高代謝率	中程度代謝率	低代謝率
A	高	高	高	高
B	高	高	高	中
C	高	高	中	低
D	高	中	低	低
E	中	低	低	低

kes サポート

課題	kes サポート
温熱環境の調査	作業環境測定
衛生診断、リスクアセスメント	作業環境測定結果等に基づく衛生診断、リスクアセスメントの実施
衛生意識の向上	労働衛生教育